

<http://www.shika-implant.org/>

インプラント  
ニュース



since 1972  
Japanese Society  
of Oral Implantology

第29号

2019年1月15日発行

# Implant News No.29

公益社団法人 日本口腔インプラント学会会報

発行人 宮崎 隆 編集 公益社団法人 日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局 〒108-0014 東京都港区芝4-3-5 ファースト岡田ビル8F

TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

HP : <http://www.shika-implant.org/> Eメールアドレス : [jsoi@peace.ocn.ne.jp](mailto:jsoi@peace.ocn.ne.jp)

【本号のトピックス】

新年の挨拶, 第48回学術大会報告, 各表彰者紹介 など

## 新年のご挨拶

公益社団法人日本口腔インプラント学会 理事長 宮崎 隆

新年おめでとうございます。会員の皆さまにおかれましてはご健勝にて新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年中は全国で地震, 集中豪雨, および台風の被害が多く発生しました。被災された会員の皆さまには改めてお見舞い申し上げます。

昨年6月の総会で新理事が承認され, 私を含めて20名の理事が総務関連, 学術関連, 認定関連, および倫理関連の4関連17委員会で担当理事として会務を担当させていただいております。

9月には第48回学術講演会が馬場俊輔大会長のもとで, 過去最大の参加者を得て盛大に開催されました。理事長講演でお話させていただきましたが, 今期の執行部は会員サービスの向上と, 日本最大の歯学系学会であり公益法人格を取得している本学会のプレゼンスを高め社会に貢献することを目標に掲げて, 各委員会活動を継続しています。

大阪の学術大会時には, 馬場大会長のご尽力により, 学会として健康長寿社会の実現に向けて 本学会が成すべき歯科医療イノベーションに関する大阪宣言を公表しました。今後はこの宣言に基づいて, 会員一丸となって国民の健康に貢献してまいりましょう。

本学会の前身の日本歯科インプラント学会と日本デンタルインプラント研究学会が設立されてから間もなく50周年を迎えるので, 渡邊前理事長の発案で50周年記念事業の準備を進めています。その中心は2020年9月に横浜で開催予定の50回記念大会です。また我が国のインプラント治療の歴史を後世に残すべく, 記念誌の発行を計画しています。先人の功績に感謝し, 今後の本学会のますますの発展を期す重要な事業になるものと認識しています。

渡邊前執行部が最も力をいれていた広告できる専門医取得に関しては, その路線を引き継ぎ, 日本顎顔面インプラント学会と連携して, 実務担当者会議を定期的に開催して, 関連行政および団体との協議を進めています。

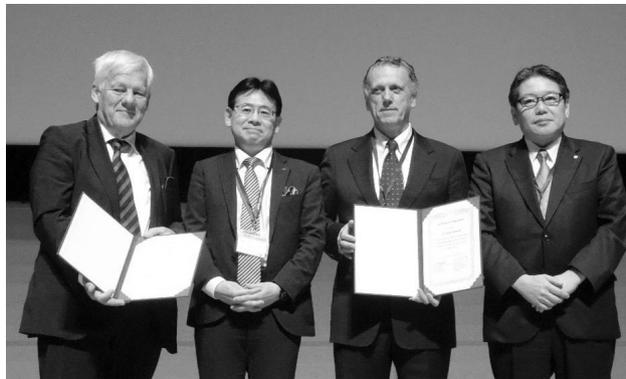
また, 会務報告やインプラント関連学会の行事などに関する情報をできるだけ早く会員にお届けできるように, 会員へのメールマガジンの配信を開始しましたので, 是非ご活用ください。

今期の執行部はこれまで以上に風通しの良い会務運営をしたいと考えていますので, 会員の皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。

## 第48回日本口腔インプラント学会学術大会 開催報告と御礼



馬場大会長の挨拶



海外招待講師と馬場大会長と阪本副大会長



海外招待講演



シンポジウムの様子

第48回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会は、平成30年9月14日(金)・15日(土)・16日(日)の3日間、大阪国際会議場で開催されました。

メインテーマとして『インプラント治療が拓く未来』を掲げ、超高齢社会のなかでインプラント治療が国民の信頼を得られる存在について検証する学会にしたいという趣旨で、大会事務局として「超高齢社会に対する責任」というサブテーマで開催いたしました。本学会の会員の皆様に、超高齢者のインプラント治療を再考する良い機会になったと思います。もう一つの目玉は大阪宣言でした。これは、患者や施術を行った歯科医師の高齢化により、術後の継続的な口腔機能の管理や介護現場での十分なサービスが提供できていない現状のなかで、超高齢社会に対してその責任を自覚し健

康長寿社会の実現に向けて、歯科医療従事者のみならず多職種連携・協働を強化し、多様な視点を取り入れることでライフステージに応じた治療法を確立するとともに、口腔機能の継続的管理を目的とした指針を策定していこうというものです。さらに、この第48回学術大会のプログラムを通して、インプラント治療を含めた口腔リハビリテーション治療によって、健康寿命のさらなる延伸に向けて歯科関係学会のなかで最大規模である本学会が中心となり、歯科医療イノベーションを起こすことを宣言したものです。

一方で、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨災害に始まった今年の自然災害は学術大会直前まで影響を及ぼしました。9月4日に上陸した台風21号と9月6日に発生した北海道胆振東部地震によって学術大会の参加が困難になった学会員の先生も多数おられま



デンツプライシロナ賞受賞者とともに



ヒューフレディ賞受賞者とともに



川添名誉大会長



第48回学術大会実行委員会の先生方



懇親会にて  
近大マグロの解体ショー

した。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。そんな中で、学会参加者は、事前登録者数 3,892 名、当日参加者数 944 名で、招待者を含め合計 4,836 名に参加していただきました。被災されながらも今回の学術大会に参加していただいた先生も大勢いらっしゃいました。本当に有難うございました。

プログラムについては、特別講演 1 題、企画講演 2 題、シンポジウム 10 題を実施することができ、優秀研究発表 20 題、歯科衛生士セッション 18 題、一般口演 110 題、ポスター発表 76 題で合計 224 題の発表がございました。ほとんどのセッションでテーマも講師選択も良かったと、事後アンケートの評価をいただいております。これは、講師・座長の先生の事前の打ち合せもあり、上手くセッションを誘導していただけたお陰と感謝申し上げます。一部のセッションではテーマと講演内容に齟齬があったりとか、講師間の打ち合せが足らなかったというような反省も報告されています。これらの反省点は、次回以降の学術大会の参考にしていただけたらと思います。

また、展示が 133 社、ランチョンセミナーが 19 社、広告 19 社等の協賛企業のご協力により会場を盛り上げていただきました。本学術大会の企画に深いご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りましたことに、この紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

学術大会の運営に当たっては、近畿・北陸支部の代議員の先生方に本当にお世話になりました。とりわけ、大阪口腔インプラント研究会の先生方、そして大阪歯科大学の先生方には、受付・会場・クローク・会場間連絡役等、大変お世話になったことに心からの感謝を申し上げて、この紙面を閉じたいと思います。日本口腔インプラント学会の今後益々の発展と、次回以降の学術大会の成功を祈念申し上げます。第 48 回学術大会のご報告とさせていただきます。

第 48 回日本口腔インプラント学会学術大会

大会長 馬場俊輔

副大会長 前田芳信

阪本貴司

名誉大会長 川添堯彬

実行委員長 戸田伊紀

## 第49回日本口腔インプラント学会学術大会のご案内

このたび、「インプラント治療が拓く未来 —スキルとテクノロジーの融合—」というテーマを掲げ、第49回公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会を福岡の地で開催することとなりました。会期は2019年9月20日(金)～9月22日(日)、会場は福岡国際会議場および福岡サンパレス&ホールです。

福岡の大会では、特別講演、シンポジウム、優秀研究発表、一般口演、ポスター発表、各種セミナー、ランチオンセミナーに加え、市民フォーラム、関連学会セッション、専門歯科衛生士教育講座、専門歯科技工士教育講座、専門歯科衛生士セミナー、専門歯科技工士セミナー、企業展示を予定しています。海外からはスウェーデンのイエテボリ大学から Lars Sennerby 先生をお招きする予定です。Sennerby 先生はインプラントの固定強さの評価に共鳴振動周波数を導入したことでよく知られており、近年は新しいインプラント表面性状について報告しておられます。また、デジタル技術について最新の情報を提供するためのシンポジウムを予定しています。さらに、新しい骨補填材、ジルコニアによる上部構造、インプラント関連手術の長期予後、インプラントの撤去基準、をテーマとしたセッションを企画しています。「Back to the Basics」では、各分野のエキスパートの講師陣に分かりやすい内容で講演をお願いしています。福岡の大会ではスキルとテク



大会長 城戸寛史



福岡国際会議場

ノロジーの融合というサブテーマに沿って、技術の習得や新しいテクノロジーの情報元となるような魅力的なプログラムを準備しています。

福岡の大会が開催される直前の9月12～18日の間、春の博多どんたく・夏の博多祇園山笠とならび博多三大祭りに数えられる筈崎宮放生会が催されます。放生会は「万物の生命をいつくしみ、秋の実りに感謝する」お祭りです。放生会が終わると福岡の夏の暑さも一区切りつき、福岡の秋の味覚も楽しんでいただけるシーズンとなります。是非多くの方に足をお運びいただき、福岡を満喫して頂きたいと思います。

実行委員一同、福岡大会が有意義な学術大会となりますよう鋭意準備を進めていく所存ですので、どうか多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。

## 第48回日本口腔インプラント学会学術大会受賞者

### 優秀研究発表賞

〈臨床系〉

「前歯部インプラント治療に伴う結合組織移植術がインプラント周囲組織の形態に及ぼす影響」

小林友幸(大阪大学歯学研究科クラウンブリッジ補綴学分野)

「歯科用CBCTの金属アーチファクト低減方法とその臨床的意義」

竹林 晃(関東・甲信越支部)

「歯科インプラントによる咀嚼機能回復と保健指導の

組合せは体組成と代謝マーカーに影響する」

武内博朗(鶴見大学歯学部)

〈基礎系〉

「インプラント体の粗面構造に誘発される Neuronal PAS domain 2 (NPAS2) 時計遺伝子はオッセオインテグレーションを促進する」

森永健三(福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野 / UCLA School of Dentistry)

「ビスフォスフォネート製剤とデノスマブ誘発性顎骨壊死の病因・病態は脈管形成依存性に異なる」

早野博紀 (長崎大学医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野)

「マイクロファイバーを用いた多孔質炭酸アパタイト顆粒の開発と骨再建への応用」

秋田和也 (徳島大学大学院医歯薬研究部口腔外科学分野)

### デンツプライシロナ賞

「歯科インプラント周囲に新生された顎骨のマイクロ／ナノ構造特性」

松永 智 (東京歯科大学解剖学講座)

「ラット脛骨インプラントモデルにおける低強度高周波振動刺激と提出力超音波パルスのインプラント周囲骨形成促進効果に関する検討」

庄原健太 (東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野)

「総合病院における要介護高齢者のインプラントの実態に関する看護師へのアンケート調査」

角田宗弘 (日本インプラント臨床研究会)

「ビーグル犬を用いた間葉系幹細胞シート移植によるビスフォスフォネート関連顎骨壊死の予防効果の検討」

貝淵信之 (東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学講座)

### ヒューフレディ賞

「口腔機能向上訓練と口腔ケアを行い全身状態の改善を経験したインプラント補綴と義歯補綴の2症例」

藤野智佳子 (北海道形成歯科研究会)

「要介護高齢者における撤退戦略後のインプラント口腔ケアの経験」

田中由美 (汐田総合病院)

## 平成30年度名誉会員



三嶋 顕先生

1944年2月5日生

#### 【学歴】

- 1969年 日本歯科大学卒業
- 1970年 北海道大学歯学部口腔外科学教室入局
- 1973年 北海道大学歯学部第2補綴学教室入局
- 1975年 山口大学口腔外科研究生
- 1977年 日本歯科大学歯学博士号取得

#### 【経歴】

- 1974年 三嶋歯科医院開院
- 1987年 医療法人柏葉会三嶋歯科医院設立 理事長

#### 【学会活動】

- 1977年 日本口腔インプラント学会入会

- 1991年 認定研修施設北日本口腔インプラント研究会創設
- 1993年 日本口腔インプラント学会指導医・専門医取得
- 2003年 日本口腔インプラント学会理事 (2005年まで)
- 2006年 第26回日本口腔インプラント学会東北・北海道支部学術大会大会長

#### (他学会関連)

- 1987年 日本歯科先端技術研究所北海道支部長 指導医・認定医・フェロー・フェローマスター
- 1999年 日本補綴歯科学会評議員・認定医
- 1999年 日本歯科医療福祉学会評議員
- 2006年 国際歯科学士会地区担当理事
- 2009年 日本顎顔面インプラント学会評議員

#### 【受賞歴】

- 2010年 (公社) 日本口腔インプラント学会特別賞
- 2011年 (公社) 日本口腔インプラント学会特別論文賞



宮城正廣先生

1947年9月27日生

【学歴】

1972年 日本大学歯学部卒業

【経歴】

1980年 みやぎ歯科医院開院

【学会活動】

- 1987年 日本口腔インプラント学会入会
- 1995年 第13回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会実行委員長
- 2003年 認定研修施設日本歯科先端技術研究所九

州支部会長

2008年 第26回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会大会長

2019年 第36回日本口腔インプラント学会九州支部学術大会名誉大会長

※永年にわたり沖縄県のみならず九州地区の歯科医師の指導的立場を担い、信頼も厚く数多くの後輩歯科医師を育成し、歯科インプラント医療の発展に寄与した。

(他学会関連)

- 1981年 沖縄県南部歯科医師会理事
- 1982年 沖縄インプラント研究会会長
- 1989年 沖縄県歯科医師会理事(学校保健担当)
- 1991年 日本学校歯科医師会学術委員
- 2003年 ITI主催研修会インストラクター  
ブレンベース主催研修会インストラクターなど
- 2009年 第17回日本全身咬合学会大会長  
琉球大学口腔外科非常勤講師
- 2012年 沖縄インプラント研究会顧問

## 平成30年度学会特別功労賞



山内六男先生

1951年4月19日生

【学歴】

- 1978年 岐阜歯科大学(現朝日大学)卒業
- 1982年 岐阜歯科大学大学院歯学研究科修了

【職歴】

- 1982年 岐阜歯科大学歯科補綴学第1講座助手
- 1986年 岐阜歯科大学歯科補綴学第1講座講師
- 1990年 朝日大学歯学部歯科補綴学第1講座助教授
- 1991年 朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所教授
- 1997年 朝日大学歯学部大学院教授(局部床義歯学)併任

2005年 朝日大学歯学部口腔機能修復学講座 歯科補綴学分野教授

2017年 朝日大学教授

【学会活動】

- 1995年 日本口腔インプラント学会専門医・指導医(現在, 終身指導医)
- 1997年 日本口腔インプラント学会常任理事(2期)
- 1997年 第18回日本口腔インプラント学会中部支部大会長  
(第27回日本口腔インプラント学会総会と同時開催)
- 2001年 第22回日本口腔インプラント学会中部支部学術大会大会長
- 2005年 (社団)日本口腔インプラント学会常務理事(3期)
- 2010年 (公社)日本口腔インプラント学会代議員(4期)
- 2010年 (公社)日本口腔インプラント学会常務理事(1期)
- 2011年 (公社)日本口腔インプラント学会専務理事(1期)

## (委員会等)

2000年 認定委員会委員長  
 2003年 庶務委員会委員長  
 2007年 認定委員会副委員長  
 2010年 広報委員会委員長  
 2011年 庶務委員会委員長  
 2012年 広報委員会委員

## (他学会関連)

(公社)日本補綴歯科学会名誉会員, 専門医・指導医  
 (一社)日本顎関節学会専門医・指導医  
 (一社)日本口腔リハビリテーション学会認定医・指導医, 理事

(一社)日本スポーツ歯科医学会終身認定医, 理事  
 (一社)日本歯科医療管理学会認定医・指導医, 理事,  
 東海歯科医療管理学会会長  
 (公社)日本顎顔面インプラント学会運営審議員  
 NPO 法人日本咀嚼学会評議員  
 日本口腔機能水学会理事  
 日本歯科産業学会理事  
 (公社)日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト

## 【受賞歴】

2013年 (公社)日本口腔インプラント学会特別論文賞  
 2014年 (一社)日本歯科理工学会功労賞

## 平成30年度学会特別賞



高森 等先生

1947年8月7日生

## 【学歴】

1973年 日本歯科大学歯学部卒業  
 1977年 日本歯科大学大学院歯学研究科 口腔外科学修了

## 【職歴】

1977年 日本歯科大学歯学部口腔外科学教室第2講座助手  
 1979年 日本歯科大学歯学部口腔外科学教室第2講座講師  
 1989年 日本歯科大学歯学部口腔外科学教室第2講座助教授  
 1991年 日本歯科大学歯学部附属病院インプラント診療科併任  
 1992年 日本歯科大学歯学部附属病院インプラント診療科長  
 2001年 日本歯科大学歯学部附属病院インプラント診療センター(名称変更)長  
 同 日本歯科大学歯学部附属病院口腔外科助教授  
 2005年 日本歯科大学歯学部附属病院口腔外科教授

2009年 日本歯科大学附属病院(名称変更)インプラント診療センター教授  
 2015年 日本歯科大学附属病院口腔インプラント診療科(名称変更)教授  
 同 日本歯科大学定年退職  
 同 日本歯科大学名誉教授

## 【学会活動】

1994年 渉外委員会委員  
 1998年 日本口腔インプラント学会専門医・指導医取得  
 2000年 関東・甲信越支部理事  
 同 認定委員会委員, 編集委員会委員  
 2005年 評議員  
 2007年 編集委員会委員  
 2009年 認定委員会副委員長  
 同 関東・甲信越支部表彰委員会委員長  
 2010年 代議員  
 2012年 関東・甲信越支部学術委員会委員長  
 同 会則委員会委員  
 2014年 総務委員会委員  
 2015年 倫理審査委員会委員  
 2016年 関東・甲信越支部監事

## (他学会関連)

(公社)日本顎顔面インプラント学会指導医, 理事,  
 運営審議員, 編集委員会委員長,  
 専門医制度委員会委員, 用字用語委員会委員  
 第17回日本顎顔面インプラント学会学術大会長  
 (公社)日本口腔外科学会専門医, 指導医

## 平成30年度学会優秀論文賞

### 日本口腔インプラント学会誌部門



都留朋子先生

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座  
論文名「下顎インプラントオーバーデンチャーのアタッチメントの違いが粘膜部応力に与える力学的影響」

この度は第48回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして学会優秀論文賞を受賞させていただきました。大変光栄に存じますとともに心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました先生方に改めて深く御礼申し上げます。高齢化が進む中、インプラント・オーバーデンチャー（以下IOD）は高齢者における補綴治療としての意義が見直されています。しかし、一方で長期経過症例において臼歯部の顎堤骨の吸収が生物学的偶発症として報告されるようになりました。この一因としてインプラントが回転軸を形成し、義歯が回転沈下することで粘膜を局所的に強く圧迫し、骨吸収を惹起していると考えられます。本論文では「IODのアタッチメントの選択により粘膜部応力をコントロールできないか」というクリニカルクエスチョンを基に、有限要素法（以下FEM）での粘膜部応力解析を行いました。従来のFEMではIODの力学的挙動を左右するアタッチメントの再現に限界があり、脱離などの非線形挙動を解析に取り込むことはできていませんでした。本実験では、まず擬似粘膜を付与した模型上でロケーターアタッチメント、緩圧タイプのボールアタッチメントを使用したIODおよびアタッチメントを使用しない全部床義歯（以下CD）に偏側荷重を負荷し、義歯の変位を3次元的に計測しました。得られた変位データを計測模型およびIOD、CD

の外形データを元に作成した有限要素モデルに取り込むことで、実際のアタッチメントの力学的挙動を反映した解析を行いました。結果、2-IODにおいてはCDに比較し、臼歯部歯槽頂での粘膜部応力が局所的に高くなっていることが観察され、また、アタッチメントで比較した場合、ロケーターアタッチメントではCDやボールアタッチメントを使用したIODに比較し、臼歯部の最大応力を抑制することが明らかになりました。今後はIOD使用者で義歯の変位測定を行い、本実験手法を応用することで、実際の口腔内での粘膜部応力分布の測定を行う予定です。本研究が先生方の臨床の一助となればと考えております。最後になりましたが、本研究を行うにあたりご指導賜りました九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座の古谷野潔教授、松下恭之准教授、研究の方向性や内容に対する御指導、御協力、御助言を頂きました九州大学大学院工学研究院機械工学部門設計工学研究室の澤江義則教授、同講座森田健敬助教ならびに本研究の遂行にご尽力いただきました諸先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。



齊藤貴司先生

愛知学院大学歯学部口腔病理学講座  
論文名「チタン上で培養した2型糖尿病モデルラットの骨髄由来骨芽細胞様細胞の分化に関する研究」

この度の第48回（公社）日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、平成30年度学会優秀論文賞を賜りましたこと大変光栄に存じますとともに、心より感謝申し上げます。また、ご選考いただきました

## IJID部門

先生方に深謝いたします。糖尿病患者のインプラント治療の成功率は正常患者よりも低いことが報告されています。しかし、この糖尿病がおよぼすインプラント治療への影響については十分に解明されているとはいえ、そのメカニズムについては不明な点が多いにも関わらず、糖尿病モデルラットやその細胞を使用した実験的研究は現在までにほとんど行われていません。そこで本研究では日本人に多くみられる肥満を伴わないSDTラット（非肥満2型糖尿病モデルラット）大腿骨より骨髓由来骨芽細胞様細胞を採取し、チタンディスク表面上で培養して接着細胞数および分化能について検索を行いました。なお、糖尿病治療により血糖コントロールが行われている状態でのインプラント治療を想定して、低グルコース環境での培養としました。本実験での接着細胞数は、3時間後および24時間後ともに、糖尿病群では対照群よりも少なく糖尿病による高血糖の影響が出ていると考えられました。細胞分化能の検索としてALP活性を行った結果、培養3日目および培養7日目では、対照群と比較して糖尿病群ではALP活性が低かったが、Alizarin red染色を用いた石灰化能の検索では14日目および21日目ともに、対照群と比較して糖尿病群は石灰化能が両日共に低かったが、21日目の方が陽性率は増加していました。この結果より、低グルコース環境において2型糖尿病ラット骨髓由来骨芽細胞様細胞は、チタンディスク上で骨芽細胞として分化することが判明しました。これは糖尿病患者においても血糖値がコントロールされた状態であれば、骨芽細胞の分化は正常に起こる可能性が示唆されます。このことから、純チタンによるインプラント治療は糖尿病患者においても歯欠損部治療の選択肢の一つとして有用であることが示唆されました。今後はさらに、高グルコース環境での骨芽細胞の分化や骨形成関連性遺伝子の発現および糖尿病ラットへのインプラントのin vivoにおける検索が必要と考えます。最後に本研究に際しご指導いただきました愛知学院大学口腔病理学講座、前田初彦教授ならび杉田好彦先生をはじめ協力をいただいた先生方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。



堀川 正先生

九州インプラント研究会

論文名「Retrospective cohort study of rough-surface titanium implants with at least 25 years' function」

この度は、平成30年度学会優秀論文賞を賜り、大変栄誉な事と感謝申し上げます。また、ご選考いただきました先生方に心より深謝いたします。

本論文は九州インプラント研究会(KIRG)の設立30周年の節目に行った調査をまとめたものです。調査に着手した当時は25年以上の長期経過報告は世界的にも少なく、この実態が明らかになれば高い学術的価値があると判断した次第です。

日本における現在の歯科インプラントは歯が抜けた後のQOLを確保し得る先端医療として約30数年前より臨床応用が開始されました。しかし当時はまだ情報が十分でなく現在と比較すると試行錯誤的で、その予後は未知数でした。KIRGはこのような背景の中、当時まだ手探り状態であったこの新しいインプラントという技術に関して、あらゆる研究、臨床の向上と発展に寄与する事を目的として故添島義和先生を中心に大学系、臨床系を交えたメンバーが集い結成されました。

論文作成にあたって最も注意した点はバイアスの排除です。とにかく治療から25年のインプラントが当初の目的をどの程度達成し、どのような経過をたどったのか？を出来るだけありのままに得られる様にしました。そのため長崎大学の澤瀬教授をはじめとする研究機関の方々のご指導の下、バイアスがなくて出来るだけ正確にその実態が導き出されるための条件に沿った(該当する全症例を調査対象とする事など)研究デ

ザインにこだわって作業を進めました。そして、長い臨床経験をもつ KIRG の開業医を中心とした先生方に 25 年以上の、長いものでは 30 年を超える症例のデータを 1 つ 1 つ丁寧に調査して頂き集めた 223 本のデータを再度長崎大学の先生方で専門的に解析して頂き、様々な規定をクリアーすることでようやくこの形にすることが出来ました。

これもひとえに KIRG が臨床系と大学系のメンバーで構成されている特性を生かした業績であり、論文と

して形にできました事は非常に幸運であり感慨深い気持ちです。あらためまして KIRG の伊東隆利会長をはじめ会員の先生方および長崎大学大学院医歯薬口腔インプラント学分野の澤瀬 隆教授、尾立哲郎先生に感謝申し上げます。

以上ご報告の様な経緯ですので、内容、結論はかなり信憑性の高いものであるものと確信しています。英文ですが是非ご一読いただき皆様方の臨床にご参考にして頂ければ幸いです。

## 第47回学術大会各賞受賞者

### 優秀研究発表賞



藤田祐也先生

大阪大学大学院歯学研究科

演題名「骨および軟組織造成術を併用した上顎前歯部インプラント治療における唇側組織の経時的定量評価」

この度は第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、優秀研究発表賞に選出していただき大変光栄に存じます。

本研究発表では、術前、上部構造装着時に撮影を行った CBCT データの重ね合わせを行うことで、前歯部審美領域においてインプラント埋入およびそれに伴う造成術によりインプラント体唇側にどれだけの組織の厚さが獲得されているのか評価を行いました。

抜歯後の healed site に埋入が行われた遅延埋入群では対象患者 29 名のデータ解析を行い、骨および軟組織造成により唇側にそれぞれ平均 1.4 mm の組織の厚さが獲得されることが明らかになりました。

抜歯即時埋入群では対象患者 21 名のデータ解析を行い、骨造成のみを併用した場合は唇側組織は平均 0.6 mm 吸収すること、骨造成に加えて軟組織造

成術を併用するとその吸収量は補償され、術前の粘膜外形を維持することができること、が明らかになりました。

本研究の特色としては、CBCT 画像上で硬組織のみならず軟組織の評価も行っていること、従来の CBCT を使用した研究では不可能であった術前後の画像比較が可能となったことがあげられます。

今後前歯部インプラント治療において、本研究の結果が埋入術式を決定する際の術前診断の一助になれば幸いです。

最後に本研究の機会を与えていただいた大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 クラウンブリッジ補綴学分野の矢谷博文教授、本研究の道筋をつくっていただいた中野環助教授ならびに日々助言をいただいた当研究室の諸先生方に厚く御礼申し上げます。



豆野智昭先生

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座

演題名「インプラント周囲疾患リスク因子の検討—機能を 3 年以上経過症例における多施設横断研究—」

この度は、第47回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、優秀研究発表賞に選出いただき大変光栄に存じます。また、ご選考いただきました先生方、学会の皆様方に改めて御礼申し上げます。

現在、インプラント治療は口腔機能を回復する有力な手段であることが広く認知されており、補綴治療において一般的なものとなってきています。その一方で、治療の予後に大きく影響するインプラント周囲疾患は、想像以上に発症頻度が高いことが報告されており、大きな問題となっています。インプラント周囲疾患の発生機序や治療法に関しては、現在のところ明確なコンセンサスは得られておらず、その解明は喫緊の課題であると考えられます。

本研究では、インプラント周囲疾患のリスク因子の検討を行うことを目的に、386名、1123本のインプラント体を対象とした多変量解析を行いました。解析には多項ロジスティック回帰分析を用い、インプラント粘膜炎（以下、粘膜炎）とインプラント周囲炎（以下、周囲炎）のそれぞれについてリスク因子を検討しました。本研究における粘膜炎の定義は、プロービング時の出血または排膿を認めるが、骨吸収を認めないものとし、周囲炎は、機能後1年時からの骨吸収量が1mm以上、かつプロービング時の出血または排膿を認めるものとしました。粘膜炎および周囲炎の発症率はそれぞれ、患者レベルで29.0%ならびに17.1%、インプラントレベルで26.3%ならびに11.0%となっており、多変量解析の結果、粘膜炎のリスク因子として、清掃不良（プラークコントロールレコード>20%）、喫煙、角化粘膜幅の不足（2mm未満）が、周囲炎のリスク因子として、清掃不良、喫煙、角化粘膜幅の不足ならびに糖尿病が、それぞれ有意な関連因子であることが示されました。これらの結果から、インプラント治療の適応において、術前の評価とともに、メンテナンス時の口腔衛生ならびに全身管理が重要であることが示されました。今後これらの知見に関してより詳細な検討を行うことで、インプラント治療の進展に貢献できる研究を続けていきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究に際して多大なるご指導を賜りました前田芳信特任教授、池邊一典教授、和田誠大講師ならびに研究遂行にあたり数多くの助言やご協力をいただきました諸先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



福德暁宏先生

岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座  
演題名「口腔内スキャナーによるインプラント上部構造の経時的構造変化の観察」

この度は、日本口腔インプラント学会第47回学術大会において、優秀研究発表賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。ご選考いただきました先生方、学会関係者の方々に深く感謝いたします。

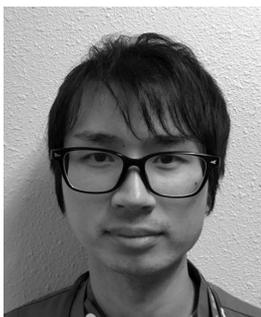
本研究は、インプラント上部構造の咬耗による形態の経時的変化を測定することを目的としております。上部構造の咬耗とそれに伴う破折は、インプラント治療の併発症として高頻度にみられ、治療の成功率を左右する重要な事象であると考えます。しかしながら、上部構造における咬耗量やその経時的な動態に関する報告はほとんどなく、日常臨床において対応に苦慮しているのが現状と思われま

す。ジルコニア製上部構造は、その機械的特性から咬耗や破損が起こりにくく、治療の長期的予後を支えるものとして期待されております。一方でジルコニアは、対合歯に過度な咬耗を引き起こすことが懸念されます。そのため、治療の安全性を高めるためには対合歯の咬耗動態についても調査する必要があると考えます。本研究においては、ハイブリッド型コンポジットレジン前装上部構造とジルコニア製上部構造の咬耗量、およびそれぞれの対合歯の咬耗量を測定いたしました。また、咬耗量を測定したこれまでの研究では、印象材と石膏を使用しているため、材料の収縮や膨張が発生し、それらを考慮する必要があります。一方、近年デジタルデンティストリーの発展に伴い、歯科用口腔内スキャナーが急速に普及しています。口腔内スキャナーは、短時間で上部構造および対合歯の撮影ができるため、咬耗量の測定を従来よりも簡便かつ迅速に行えるようになりま

した。

本研究の結果から、3か月、6か月经過時におけるジルコニアとハイブリッド型コンポジットレジン  
の咬耗量に有意な差は認めませんでした。また、対  
合歯の咬耗量についても、材料間に違いは認めま  
せませんでした。従って、適切に研磨されたジルコ  
ニア製上部構造は、対合歯の過度な咬耗を引き起  
こすことなく、臨床上問題なく使用できることが  
明らかとなりました。最新の in vitro 研究でも、  
ジルコニアは均一な表面性状をしているため、  
コンポジットレジンよりも長期的に対合歯を咬  
耗させにくいという報告があります。実際の口  
腔内においても、長期経過においてそうした咬  
耗動態が認められるか、更なる観察を続けて  
いきたいと考えております。

最後に、本発表に際してご指導いただきました近  
藤教授、田邊講師をはじめとした補綴・イン  
プラント学講座の医局員の皆様方に深く感謝  
いたします。



右藤友督先生

長崎大学生命医科学域口腔インプラント学分野

演題名「繰り返し荷重が顎骨に埋入されたインプラント  
周囲骨組織の骨質制御機構に与える影響を分子生物学的  
に解明する」

この度は第47回日本口腔インプラント学会学術  
大会におきまして、優秀研究発表賞に選出してい  
ただき大変光栄に存じます。

骨の機械的強度は骨量と骨密度から構成されま  
すが、近年「骨質」が骨の力学的機能の鍵を握る  
ことが分かってきました。以前は骨密度と同義で  
使用されてきた「骨質」という概念ですが、2000  
年に米国国立衛生研究所が、「骨質は骨密度とは  
完全に独立しており、骨構造、石灰化、損傷の蓄  
積、ならびに骨代謝回転から構成される」こと  
を報告しました。さらにこれらは、骨関連細胞、  
コラーゲン線維／生体

アパタイト結晶複合体の配向性を基盤として構築  
されることも分かっています。

一方で、デンタルインプラントに上部構造が装  
着されると、埋入されたインプラント周囲骨に  
は生涯を通じて荷重が作用しますが、荷重環境  
下におけるインプラント周囲骨組織がどのよ  
うに骨質を変化させるかはほとんど明らかに  
されていないのが現状です。

今回我々は、ラット上顎骨にチタン製イン  
プラントを埋入し、骨結合が獲得された後に  
インプラントを介して規則的な繰り返し荷重  
を付与する実験を行いました。そして、  
microCTによる三次元的構造解析、定量  
qPCRによる遺伝子発現解析、組織形態学  
的・免疫組織化学的解析、複屈折測定シ  
ステムによるコラーゲン線維の配向性解  
析により、荷重がインプラント周囲骨組  
織に与える影響を検証しました。その結  
果、インプラントへの規則的な繰り返し  
荷重はインプラント周囲の骨量に影響し  
ない一方で、骨密度を有意に増大させる  
ことが分かりました。また荷重により  
インプラントネック部におけるスレ  
ッド内外部の骨細胞数は増加し、スレ  
ッド内部の骨芽細胞数も増加していま  
した。骨関連細胞における遺伝子発  
現解析では Podoplanin, MEPE, RANKL  
ならびに Runx2 の発現上昇を認め、  
免疫染色により Semaphorin3A の産  
生増大が確認されました。さら  
に、インプラントを介して荷重を受け  
た骨組織ではコラーゲン線維の優先配  
向が変化することが明らかとなりました。

以上から、インプラントを介した規則  
的な繰り返し荷重は骨関連細胞とコラ  
ーゲン線維に影響を与えて骨質を適  
応変化させ、その過程で semaphorin  
3A の発現が関与する可能性が考え  
られました。今後は骨質変化に関わ  
る荷重応答誘発性分子の探索と、骨  
質がインプラントの長期安定性に与  
える影響を明らかにすることを目標  
としています。

最後に、本研究を指導して頂きました長  
崎大学口腔インプラント学分野の澤瀬  
隆教授、黒嶋伸一郎准教授、本研  
究にご協力頂きました大阪大学大  
学院工学研究科マテリアル生産科学  
専攻生体材料学領域の中野貴由教  
授、石本卓也准教授、ならびに本  
研究にご協力いただいたすべての先  
生方に御礼申し上げます。



成松生枝先生

九州大学大学院歯学研究院インプラント義歯補綴学分野  
演題名「インプラント表面性状の違いが上皮および結合組織による軟組織封鎖性に与える影響」

この度は第47回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、優秀研究発表賞に選出していただき、大変光栄に存じます。インプラントの長期的な成功には、強固な骨結合に加えて、軟組織の封鎖による感染防御が重要です。しかし、インプラント表面の改質は骨研究が主流とされ、軟組織についての報告は十分ではありません。そこで本研究では、異なる表面性状を有するインプラントに対して、上皮および結合組織による軟組織封鎖性の違いを検討しました。

試料は①無処理群 (Ms 群) ②サンドブラスト酸エッチング処理群 (Rs 群) ③カルシウム水熱処理群 (Cs 群) ④陽極酸化処理群 (As 群) とし、細胞 (各チタンプレート上での培養) および動物 (ラット口腔内への各インプラント埋入) 実験を行いました。

1) 上皮組織は細胞の接着能とインプラント界面の接着構造の局在, 2) 結合組織はコラーゲン発現能とインプラント周囲のコラーゲン線維の走向を評価しました。

結果、上皮組織の接着性は平滑面である Ms 群および Cs 群で高く、結合組織では粗造面である Rs 群および As 群で封鎖性に優れることが示されました。また、軟組織封鎖性は上皮組織が前衛、結合組織が後衛として作用し、長期的な封鎖の維持には上皮組織が強く影響することが示唆されました。

今回受賞させていただきましたことを励みに、研究成果を積み重ね、インプラント治療のさらなる発展の一助となれるよう、今後も研鑽を積んでいく所存でございます。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり、ご指導を賜りました九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野の古谷野潔教授、鮎川保則准教授、熱田生講師、また、ご助言をいただいた諸先生方に厚く御礼申し上げます。



大野充昭先生

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科分子医化学分野  
演題名「必須アミノ酸トリプトファンは骨髄由来間葉系幹細胞の幹細胞性を制御し骨形成を促進する」

口腔インプラント治療においてより良い審美性や機能性を達成するために、骨造成や骨質の改善に向けた多くの研究が行われてきましたが、骨質については未だ良好な結果が得られていないのが現状であります。我々の研究室では、ホストの年齢に関連して骨髄内の間葉系幹細胞 (BMSCs) の性質の変化が生じ、骨髄の脂肪変性が引き起こされることに着目し、BMSCs の幹細胞性を維持することが骨質改善に繋がるのではないかと考えました。そして、日常的に食品から摂取しているアミノ酸に着目し、特定のアミノ酸の量をコントロールすることで、BMSCs の幹細胞性を維持し、骨質改善や骨創傷治癒促進に繋がるのではないかと考え、アミノ酸を中心にスクリーニングを行いました。その結果、必須アミノ酸の一つであるトリプトファンが BMSCs の幹細胞性維持に関わり、トリプトファン投与により骨質の改善、ならびに実験的骨欠損モデルにおいて骨再生が促進されることが明らかとなりました。今後はこのトリプトファンの BMSCs の幹細胞性維持に関わる作用機序の詳細を明らかにすると共に、老化による幹細胞の機能低下から生じる骨粗鬆症などの様々な疾患に対する新たな治療法の開発に貢献したいと考えています。

最後になりましたが、この度は、第47回日本口腔インプラント学会学術大会にて優秀研究発表賞を賜り、心より感謝申し上げます。また、本研究を行うにあたりご指導頂きました岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野 窪木拓男教授、分子医化学分野 大橋俊孝教授、ならびに本研究にご協力頂いた先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

## デンツプライシロナ賞



荻野洋一郎先生

九州大学大学院歯学研究院インプラント義歯補綴学分野  
演題名「コニカルコネクションとプラットフォームシフ  
ティングがインプラント周囲骨に及ぼす影響」

この度は、第47回日本口腔インプラント学会学  
術大会におきましてデンツプライシロナ賞を賜り、  
大変光栄に存じます。ご選考下さいました先生方、  
学会の皆様方に心より御礼申し上げます。

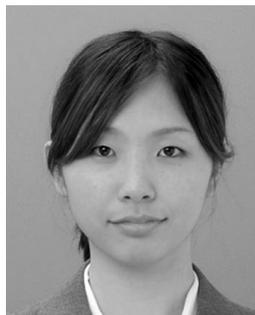
インプラント治療は欠損補綴治療のオプションと  
してその地位を確立したことは言うまでもありませ  
ん。インプラントが口腔内で長期間、機能している  
時を迎えているからこそ、「インプラントの成功の基  
準」があり、その中の一つに、インプラント周囲骨の  
評価があります。診断から外科処置、補綴処置、メ  
インテナンスにわたり複数の要素が周囲骨に影響を  
与えることが報告されており、歯科医師の能力、技  
術に依存する要素が数多くある中、我々は視点を  
変え、インプラントとアバットメントの接合部分に注  
目をいたしました。

インプラント周囲骨の吸収を引き起こす原因にこ  
の接合部分に存在する「マイクロギャップ」が挙げら  
れます。これまでマイクロギャップを最小限にする  
ことがインプラント周囲骨の維持に重要であると言  
われています。また、接合部分の形態で周囲骨に影  
響を与える要素として「プラットフォームシフティ  
ング」が報告されています。本研究では、マイクロギャ  
ップを可及的に小さくできる結合様式として強固な接  
合が期待できる「コニカルコネクション」と「プラ  
ットフォームシフティング」を有するインプラント(GC  
インプラント Aadva)を使用した患者の1年後の骨  
変化について発表いたしました。

本研究では、24名の被験者の最終補綴時と1年後  
のインプラント周囲骨の骨レベルを規格化したデン  
タルX線写真で撮影し、骨量の変化を計測しました。  
その結果、1年後の平均値で0.10 ± 0.46 mmの骨

増量を認めました。過去の報告やインプラントの成  
功の基準を見ても経年的に骨量の減少が認められる  
ことが多い中で、平均値ではあるものの骨量の増加  
が認められたことは、予想以上の結果でありました。  
このような結果からマイクロギャップを抑制するコ  
ニカルコネクションとプラットフォームシフトはイン  
プラント周囲骨の維持において臨床的に有効であ  
る可能性が示唆されたと言えます。現在も本研究の  
観察は継続しておりますので、今後はさらなる解析  
を加え、新たな知見を会員の皆様にご報告できれば  
幸いです。

最後になりましたが、本研究の遂行にご協力いた  
だいた被験者の皆様と多くのご助言をいただきました  
(株)ジーシーの皆様にこの場を借りて厚く御礼申  
し上げます。



前田由佳利先生

北海道大学歯学研究院口腔機能補綴学教室  
演題名「ミノサイクリンを担持したカーボンナノホーンの  
開発」

この度は、第47回日本口腔インプラント学会学  
術大会におきまして、デンツプライシロナ賞を賜り、  
大変光栄に存じます。また、ご選考していただきま  
した先生方、学会の皆様方には心より御礼申し上げ  
ます。

カーボンナノホーン(CNHs)は直径2~5 nm、  
長さ40~50 nmの炭素のみからなる新素材で、そ  
の組織安定性と薬剤担持能力から薬物の輸送用担体  
として期待されており、バイオメディカル分野で注  
目を集めるナノ物質の一つです。当教室ではこれま  
でに、CNHsを固着したGBR膜は骨再生を促進す  
ることを報告しており、また高機能化したインプラ  
ント材料を開発するために、陽極酸化チタン表面に  
CNHsを固着する方法の検討で2年前に同じ研究  
チームである高田先生が同学会にてご発表・同賞を  
受賞されています。これらを応用し、インプラント

周囲炎に頻用されるミノサイクリン (MC) を CNHs に担持させることにより、インプラント周囲炎の消炎および周囲骨の再生に応用することができると考えました。

550℃にて大気酸化処理を行った CNHs と、MC 塩酸塩水溶液を混和後、超音波分散を行い、MC/CNHs 水溶液を作製したところ、通常不溶性である CNHs の分散性が向上しました。

また A.a. 菌を用いて細菌培養を行ったところ、MC 単体での培養に比べ MC/CNHs の方が低濃度にて静菌性を発揮することが確認されました。MC が CNHs に吸着することで細菌に対する局所濃度が向上し、効果が増強されたと考えられます。

今後は CNHs の処理方法等を検討することで、さらなる効果の増強を図るとともに、CNHs と MC の相互作用についての解明を進めていきたいと考えています。

最後に、本研究を行うにあたりご指導いただきました北海道大学大学院歯学研究科口腔機能補綴学教室横山敦郎教授、平田恵理助教をはじめ多くの先生方に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



松本知生先生

奥羽大学歯学部 歯科補綴学講座

演題名「ビスフォスフォネート製剤とステロイド製剤の併用療法はインプラント周囲に顎骨壊死を惹起する」

この度は、第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会におきましてデンツプライシロナ賞を賜り、誠に光栄に存じます。また、ご選考いただきました諸先生方に心より感謝申し上げます。

ビスフォスフォネート (BP) 製剤使用患者の一部には、口腔関連 QOL を著しく低下させる難治性の顎骨壊死 (ONJ) が発症することが報告されており、近年では、BP 製剤関連顎骨壊死 (Bisphosphonate-related ONJ: BRONJ) の発症契機にインプラント治療が関与することが明らかとなりました。しかし、

ONJ の病因と病態は現在でも不明で、ましてや動物モデルがほとんど存在しないインプラント周囲の顎骨壊死 (Implant-BRONJ: I-BRONJ) については全く分かっていません。そこで本研究では、I-BRONJ の動物モデルを確立して、病因や病態を明らかにすることを目的としました。

8 週齢の雌性 Wistar 系ラットの上顎両側第一大臼歯を抜歯し、4 週間後から 15 週間にわたり薬剤投与を行いました。生理食塩水投与群 (VC)、アレンドロネート単独投与群 (ALN)、デキサメサゾン単独投与群 (DEX)、ならびに ALN と DEX 併用投与群 (ALN/DEX) の 4 群を作製し (各群 n=8)、薬剤投与開始後 12 週で抜歯相当部位にインプラントを埋入しました。インプラント埋入 3 週後にラットを屠殺し、口腔内写真による肉眼的観察と創部の定量解析、ならびに MicroCT による 3 次元的構造解析を行いました。その結果、VC と ALN のインプラント周囲組織は治癒しており、DEX では一部のインプラント周囲組織に創傷治癒不全が認められました。一方、ALN/DEX のすべてでインプラントを含んで創部開放が起こり、骨露出が認められました。さらに ALN と DEX は VC と比較して、インプラント周囲骨組織における骨量・骨梁数・骨梁幅の有意な増大、ならびに骨梁間隙量の有意な減少を認め、ALN/DEX では VC と比較して、インプラント周囲骨組織における骨量変化は起こらず、骨梁幅は増大して骨梁間隙量は減少していました。以上より、ALN と DEX の併用投与はインプラント埋入部位に高頻度で ONJ 様病変 (I-BRONJ) を惹起することが明らかとなり、BP 製剤の単独投与はインプラント周囲骨組織の骨量を増大させることが分かりました。一方、DEX の単独投与はインプラント周囲骨組織のパラメーターを変化させたものの、本研究の解析では骨の生死が不明なため、組織形態学的解析を含めたさらなる解析が必要であると考えられました。以上より、本研究で開発された高頻度発現型ラット I-BRONJ 様病変モデルは、インプラントに起因した BRONJ の病因と病態の解明に貢献できる可能性が示唆されました。

今後は、各種組織染色や免疫染色などから組織学的解析を行って I-BRONJ の病態を明らかにし、I-BRONJ 研究の基盤構築に貢献したいと考えています。

最後に、本研究を行うにあたりご指導いただきました長崎大学生命医科学域口腔インプラント学分野の澤瀬 隆教授、黒嶋伸一郎准教授ならびに本研究にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。



鷲尾 薫先生

東京女子医科大学先端生命医科学研究所  
演題名「イヌ歯根膜細胞シート付着型インプラントを用いた歯周組織再生誘導」

この度は第47回日本口腔インプラント学会学術大会におきましてデンツプライシロナ賞を賜り、大変光栄に存じますとともに心より感謝申し上げます。また、ご選考下さいました先生方、学会の皆様方に深謝いたします。

近年、インプラント療法は大きな進展を遂げ、審美的・機能的に優れた治療法が広く行われる一方で、長期経過した症例にインプラント周囲炎が報告されるようになり問題視されていますが、根本治療法はまだ確立されておられません。インプラント周囲炎の発症要因の一つとして、インプラント体周囲には天然歯周囲に見られる歯根膜組織がないことが挙げられます。歯根膜組織には線維性組織や血管・神経が含まれ、恒常性維持の役割を担っています。さらに歯根膜組織には間葉系幹細胞が含まれ、それらは多分化能を示します。シート状に培養した歯根膜由来幹細胞を歯周病患者へ移植する臨床研究がすでに行われ、骨・歯根膜・セメント質を含む歯周組織再生が示されております。そこで我々は顎骨-インプラント間に歯根膜様組織を新生できれば、インプラントを温存しやすい環境を構築できると考え、検討を行っております。

インプラント材料は生体為害性の少ないチタンを選定し、そこへ細胞接着を効率よく誘導させるため、チタン表面に酸処理、プラスト処理、リン酸カルシウムコーティングを行いました。結果、未処理群に比べ、表面処理群の方が早期に広範な細胞接着が誘導されることが確認できました。続いて生体内にて加工チタン表面上に歯根膜様組織を構築可能か検討しました。歯根膜細胞シートを貼付した加工インプラントをイヌ顎骨欠損モデルへ移植し約11週後に組織観察した結果、3例中2例においてセメント質様組織層がチタン上に形成され直上に歯根膜様組織

の構築が確認されました。一方、細胞シートを伴わず加工インプラントのみ移植した対照群ではオッセointegrationsが確認されました。これにより、インプラント周囲にも天然歯周囲に見られるような歯周組織様組織を構築可能であることが示されました。今後、この新生組織の機能性を示し臨床応用を目指すことで、新しい概念のインプラント治療を開発していく所存でございます。

最後に、本研究遂行の機会を与えてくださりご指導いただいた東京女子医科大学先端生命医科学研究所の石川烈特任顧問、岡野光夫教授、東京医科歯科大学生体材料工学研究所の塙隆夫教授に深く感謝するとともに、本研究にご協力くださった全ての先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

## ヒューフレディ賞



稲野辺紫巳先生

新潟大学医歯学総合病院診療支援部歯科衛生部門  
演題名「人工歯肉付きインプラントブリッジに対するプロフェッショナルケア後の細菌数と患者満足度の評価」

この度は第47回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、ヒューフレディ賞を賜り大変光栄に存じます。ご選考いただきました先生方、学会の皆様方には心から感謝申し上げます。

近年、人工歯肉付きのインプラントブリッジが増加しています。このような補綴装置は歯槽骨吸収が進んだ高齢者の症例に適用されることも多く、患者自身のセルフケアが難しく、歯科衛生士による定期的なプロフェッショナルケアが大変重要となります。プロフェッショナルケア時に上部構造を外さない場合、プラークの付着状況の確認やインプラント周囲粘膜の炎症状況の的確な把握が困難となります。しかし、プロフェッショナルケア時に上部構造を取り外す有効性についての報告はほとんど無く、上部構造を取り外して清掃するかどうかの診療指針は未だ

ありません。そこで本研究では、スクリュー固定の人工歯肉付きインプラントブリッジの上部構造を取り外して清掃を行う方法と、外さずに清掃する方法を清掃前後の細菌数の減少と患者満足度を評価の指標として比較しました。

その結果、上部構造を外す場合も外さない場合も一定の清掃効果が認められましたが、外して清掃を行ったほうが細菌残存率は有意に低いことが明らかになりました。また、上部構造を外さずに清掃すると満足度が低い傾向がありました。細菌レベルを1～7段階で評価すると、清掃前の細菌数がレベル2以下の場合、上部構造を外さずに清掃してもレベル1まで下がる可能性が高いが、清掃前の細菌数がレベル3以上の場合、上部構造を外さずに清掃すると細菌が残る可能性が高いので、上部構造を外して清掃する必要性があることが明らかになりました。

スクリュー固定の人工歯肉付きインプラントブリッジはさらに増加していくと考えられます。今後、効果的なプロフェッショナルケアの構築のために、多施設研究や評価項目の増加等さらなる研究が必要だと考えています。

最後に、本発表に際し、このような機会を与えてくださった魚島勝美教授、ご指導頂いた荒井良明准教授をはじめとする多くの先生方、スタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。



山本麗子先生

神奈川歯科大学 口腔科学講座・歯科形態学分野  
演題名「インプラント周囲炎時の歯周組織の微細循環変化について」

この度は第47回日本口腔インプラント学会学術大会におきまして、ヒューフレディ賞を賜わり、大変光栄に存じますとともに、ご選考いただきました先生方、学会の先生方には心より感謝申し上げます。

近年インプラント治療の広がりとともに、インプラント周囲炎患者も増えていると言われ、本学会でも度々話題にのぼっています。このことは、日常の歯科衛生士臨床でも体感できるようになってまいりました。インプラント周囲炎の発症機序は何なのか？ 予防することは可能なのか？ 歯科衛生士として取り組むべきことは何なのかという疑問に対するエビデンスを捜すために、大学院にて学び始めたのが本研究を開始した動機です。研究室では微小循環に焦点を当て動物実験によるインプラントや骨形成の形態学的研究を行っていたことから、インプラント周囲炎を血液循環・血管構築から解明していくことになりました。天然歯の接合上皮はエナメル質とヘミデスモゾームにより密着し結合し上皮下には多数の血管が網状に配列し豊かな血流を有しています。この部分には白血球など炎症防御に働く細胞も数多く遊走しています。インプラント周囲組織はこの天然歯に備わる接合上皮が欠如し、主に環状線維とそれに沿った血管網が周囲を水平に取り囲んでいることが走査型電子顕微鏡観察でわかりました。これは、線維による付着が弱く、血流・血管が疎であることから炎症防御機構が脆弱であることがわかりました。さらに、インプラントにプラークコントロールを行ったときにはどのような血流・血管の変化が生じるかについても実験を始めました。まだ、例数は少ないのですがプラークコントロールによりインプラント周囲の血管構築は歯肉溝上皮様と接合上皮下様の異なる形態の血管網が再生されることが観察されました。このように徹底した口腔ケアを行い、歯肉微小循環を改善することで極めて天然歯に近い循環機構が得られる可能性が示唆されました。これはインプラント治療において歯科衛生士の果たす役割が非常に大きいことを示していると考えられます。今後も引き続き例数を増やし基礎と臨床、歯科医師と歯科衛生士の橋渡しとなる研究を続けていきたいと考えています。

最後に、本研究を行うにあたりご指導いただきました神奈川歯科大学口腔科学講座歯科形態学分野松尾雅斗教授、東雅啓助教をはじめ、諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

# 公益社団法人 日本口腔インプラント学会

## 第33回口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会報告

東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来  
春日井昇平

本年8月26日に、本学の裏にある「東京ガーデンパレス」において、専門医臨床技術向上講習会が開催されました。昨年本学会の教育・研修委員会から、今年度の講習会の企画を依頼されましたので、開催時期は8月下旬として、当初講習会の会場として学内の大講堂を使用する予定でした。しかし、学内の大講堂の使用予定が既に入っていたため、東京ガーデンパレスを講習会の会場としました。教育・研修委員会から「インプラント問題症例の対応について—特にメンテナンス時におけるリカバリー処置について」を講習会のテーマとするよう指示されたので、それに準じた演者を選定し、向上講習会を企画しました。

講習会当日は、最初に私が挨拶して、現教育・研修委員長である近藤尚知先生（岩手医科大学）より開会の挨拶をいただきました。その後、私が「インプラント治療において長期良好な予後を得るために留意すべきポイント」について講演しました。私は大学附属病院のインプラント外来に勤務しているため、インプラント治療の問題症例を診る機会が多くあります。インプラント治療において問題が起きている場合、その問題が起きた原因が必ず存在しています。したがって、最初にその原因を明らかにして、その原因に対する適切な対処を行うことが、問題解決の有効な方法であると考えています。次いで、当外来の塩田真が「メンテナンス期に表れる補綴的な問題とその対応」、本学歯学部附属病院技工部の長谷川勇一技工士が「インプラント上部構造の修理方法と技工操作の工夫」について、この二名の演者による

対談形式の講演を行って、午前の部を終了しました。

その後、学会が用意したお弁当を受講者に配布して昼食となりました。

午後の部の最初に、国際医療福祉大学の朝波惣一郎先生に「インプラントはMRONJのリスク因子か?」というタイトルで御講演いただきました。BP剤だけではなく、抗RNAKL抗体のデノスマブや、抗VEGF抗体のベバシズマズ（アバスタチン）によっても顎骨壊死が起きること、そして骨吸収抑制剤を服用している患者に対するインプラント治療においては、リスクの説明を十分に行うこと、口腔衛生を良好な状態に保つことの重要性が強調されました。次いで、東京都のおおはし歯科医院に勤務する喜田さゆり衛生士に、「インプラント治療長期安定のため歯科衛生士の役割」について御講演いただきました。インプラント治療前と治療後における歯周病のコントロールと、良好な口腔環境を維持することの重要性は広く認識されており、インプラント治療において衛生士が果たす役割は極めて重要です。本講習会の最後の演者として、本学歯周病学分野の竹内康雄講師に、「インプラント周囲炎に関わる細菌学的リスクファクター」というタイトルで、インプラント周囲炎と歯周炎の細菌叢に関する最新の研究の紹介、インプラント周囲炎の原因、インプラント周囲炎の治療についてご講演いただきました。その後、15分の休憩を挟んで、講演者全員にご登壇いただき、近藤教育・研修委員長と私が座長を務めて総合討論を行いました。講習会の参加者に、演者に対する質問を紙に記入してもらいましたので、その質問を含め



教育・研修委員長 近藤尚知先生のご挨拶



会場風景



朝波惣一郎先生の講演



講習会最後のディスカッション

て総合討論を進めました。16時に総合討論を終了して、その後、参加者に参加証を配布して、本講習会を終了しました。

ところで、参加登録した専門医の一名が、本人は研修会に出席しておらず、代理人が参加証を受理したことが判明しました。専門医には高い知識と技術に加えて、倫理の順守が求められます。このような恥ずべき行為を行った専門医の資質と見識を疑います。

今回の講習会には、254名の専門医が参加しました。この講習会に対する参加者からのアンケートを集計した結果、「今回の講習会に参加して良かったで

すか」という問いに対して、「良かった」が89%、「良くなかった」が11%でした。また「内容がつまらない」、「内容が古い」、「専門医相手の内容でなかった」という厳しい意見をいただきました。今回の講習会は概ね成功であったと自負していますが、参加者の意見を真摯に受け止めて、講習会の内容と運営に改善が必要であると思っています。

最後になりましたが、この講習会で素晴らしいご講演をいただきました演者の先生方、研修会の運営にご尽力いただきました学会事務局員、当教室の医局員に深謝致します。

# 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 第34回口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会報告

東京歯科大学附属病院口腔インプラント科  
矢島安朝

2018年10月14日(日)に、東京歯科大学水道橋校舎新館 血脇記念ホールにて、第34回口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会が開催されました。本年は、JSOI 専修医の最初の更新年であるため、多くの先生方の単位取得のために、この講習会は追加実施されました。当日は、開催地の関東・甲信越支部をはじめ、全国から257名の先生方にご参加をいただき、大変盛況な講習会となりました。参加者の内訳は、関東・甲信越支部134名、中部支部36名、近畿・北陸支部31名、九州支部22名、中国・四国支部20名、東北・北海道支部13名、非会員1名であり、また、指導医12名、専門医145名、専修医83名、専門医取得予定者6名、その他11名でした。

本年度の講習会のメインテーマである「インプラント問題症例の対応について —特にメンテナンス期におけるリカバリー処置について—」をもとに、この講習会のサブテーマである「困った症例から学ぶ —先生のケースを教えてください—」について、5名の演者から、臨床的示唆に富んだ貴重な講演が行われました。

午前中は、前 教育・研修委員長であり、この講習会の主催者である東京歯科大学の矢島安朝先生から、「ベテランの先生方の多くの経験の中から、困った症例、問題症例、Failure case をたくさん紹介していただき、この場で対応法を理解し、今後、私たちが同じケースに遭遇しても確実な治療ができるよう学習する。」という講習会の趣旨説明が行われました。続いて、日本大学松戸歯学部に加藤仁夫先生から、「問題症例から学ぶ ～骨補填材を改めて考える～」と題して、骨造成法の歴史、上顎洞底挙手術・ブロック骨移植・細片骨移植・仮骨延長術など各骨造成法の短期経過と長期経過、骨補填材料の種類と問題点やそれぞれの適切な使用方法について解説をしていただきました。その後、東京歯科大学の松浦正朗先生から「インプラント治療後に起こったトラブル —その原因と対応—」と題し、インプラント体の上顎洞迷入、イン



当日の会場の様子



担当校 矢島安朝先生 ご挨拶

プラント周囲炎、インプラント体の破折などの合併症について、それぞれの発生機序や対応方法、その後の経過について多くの文献やご自身の症例をもとにご教示いただきました。

午後は、まず、東京都でご開業されている藤関雅嗣先生から、「それは突然やってくる —メンテナンス期におけるトラブルとその対応について—」とのタイトルで、インプラント治療のメンテナンス期に生じた咬合力に起因するトラブル、歯周病に起因するトラブル、セメント固定式上部構造の問題、様々な補綴的合併症について症例をご供覧いただき、それぞれの原因と対応方法に関するご講演をいただきました。続



総合討論



司会進行の小倉 晋先生

いて、昭和大学歯学部尾関雅彦先生から、「患者さんが教えてくれたインプラント補綴の勘所」と題して、すでにあるインプラントを温存してのリカバリー症例、予後不良なインプラントを撤去しての咬合再構成症例、インプラント体破折に対する各種治療例など、メンテナンス期に生じた様々なトラブルに対する対応法を解説していただきました。最後に東京医科歯科大学の小田茂先生から「SPT・メンテナンスを考える —特にインプラント周囲炎について—」と題し、最新の知見に基づくインプラント周囲炎の診断と治療方法・メンテナンス方法について解説していただき、軟組織移植などを行ったリカバリー症例をご供覧いただきながら具体的な対応方法についてご講演いただきました。

講演終了後、総合討論が行われました。参加者から多くの質問をいただき、予定時間いっぱいまで、ディスカッションが行われました。総合討論終了後、参加者に対して修了証が授与され予定通りすべての日程を終了いたしました。当日は、多くの先生方にご参加い



教育・研修委員の先生方からご挨拶

いただきましたこと、改めて御礼を申し上げます。また、会場が手狭であり、設備の都合上細かな温度調整が困難であったことを、この場を借りてお詫び申し上げます。講習会の運営にあたり、様々なご助言をいただきました教育・研修委員の先生方に感謝申し上げます。

(文責：準備委員長 本間慎也)

## 第32回 DGI 参加報告

国際委員会委員  
萩原芳幸

2018年11月28日から11月30日の日程で第32回ドイツ口腔インプラント学会 (Deutsche Gesellschaft für Implantologie : DGI) がフランクフルトからほど近い Wiesbaden (ヴィースバーデン) の Rhein-Main Congress Center で開催されました。今回は日本口腔インプラント学会 (JSOI) の英文誌である IJID

(International Journal of Implant Dentistry) の日本側編集長である前田芳信先生と二人で出席いたしました。前田先生は IJID 関連の会議に出席され、その報告も本ニュースレターに掲載されています。

ヴィースバーデンはライン川に近く、近接するマインツ (ブンデスリーガ1部のサッカークラブであるFSV



写真1 DGIの学会受付。いかにもドイツらしいシンプルながら洗練された学会会場にマッチしたスタイリッシュな受付でした



写真3 クリスマスマーケットはドイツの冬の風物詩で、グリューワイン (Glühwein: ワインと香辛料を温めて作るホットカクテル) は欠かせません



写真2 高齢者へのインプラント対応で有名な Frauke Müller先生をモデレータとして、インプラントと老年歯科学に関するセッションもメイン会場で開催されていました

マインツ 05 で有名。残念ながら現在は日本人選手の登録なし)と合わせてフランクフルト/ライン＝マイン大都市圏(ドイツにおける工業および商業の中核)を形成しています。その中であってヴィースバーデンは連邦官庁や保険会社の本社が置かれた学術都市としての役割を担います。また、観光地としてはゲーテやドストエフスキーも訪れた歴史ある温泉保養地として知られています。ちなみに『バーデン』はドイツ語で温泉・浴場の意味で、南ドイツのバーデン＝バーデンとともにドイツの2大温泉都市に数えられています。

DGIはドイツの会員総数は約8,000人で、JSOIと同様に臨床および科学的な研究発表を軸にドイツおよびスイス、オーストリア等のドイツ語圏において活発に活動をしています。JSOIとは2009年から正式な学術協定を締結しており、IJIDは両学会共通の英文学術雑誌です。

学会初日の木曜日は各種会議やインプラントメーカー主催のハンズオンコースや臨床フォーラム等が開催され、大多数の一般会員は金曜日と土曜日のプログラムに参加することが多いようです。学術的内容は各年度のプログラム委員会により異なりますが、第32回DGIでは『すべての人を対象としたインプラント: パーソナライズされたインプラント技術』をメインテーマに、1,500人以上の参加者を集めました。基礎研究から外科、補綴、インプラント周囲炎関連、デジタル技術を応用した最新インプラント治療、高齢者への対応まで幅広くセッションが設けられていました(写真1, 2)。これらの多くはDGIが選定した演者による講演あるいはシンポジウムが主であり、一般会員はテーブルクリニックやポスター発表を行います。基本的にドイツ語ですべて運営されますが、昨年度から国際フォーラムが設けられ、招待演者は英語で講演を行います。

DGIは毎年11月の最終週に開催されますが、この時期のドイツは天候が悪く雨や曇りの日が続きます。観光には適しませんが、各地でクリスマスマーケットを楽しむことができます(写真3)。2019年は11/29～12/1にハンブルグで開催予定ですが、2020年度はベルリンでEAO (European Association for Osseointegration)と共同開催(10/8～10/10)されます。EAOにはJSOI会員の皆様も多く参加されているので、是非この機会にDGIにも参加して相互理解をより深めて頂きたいと思います。

## 2018 IJID Editorial Board Meeting から

編集委員会（国際誌担当）  
副委員長 前田芳信

2018年11月30日にDGIの学会が開催されたドイツヴィスバーデンの会議場内で2018年度のボードミーティングが開催された。この会議には、当初の予定よりは少なかったが、DGIでのIJIDのチーフエディターであるTerhyden元DGI会長をはじめ、3人のボードメンバー、マネージメントを担当してくれているSpringerからHentschke女史が参加した。

まずこれまでのIJIDの運営状態をSpringerが用意したレポートを元に、投稿数、アクセプトならびにリジェクトされた論文数、国別の投稿数、アクセプト数、論文の種類、さらには論文のダウンロード回数のトップ5、引用された回数のトップ5などが説明された。

ついでIFの取得までに必要な手続き等が説明され議論が始まった。

やはり最大のポイントはIFをどの時点で獲得にむかうかで、2人のチーフエディター（Dr.Terhydenならびに前田）からは次のような理由で即刻始めるべきであるとの意見が出た。それらは

- ・論文の投稿数が横ばいになりつつあるが、その多くはかなり洗練されたものになってきていること
- ・このままIFの無い状態で運営を続けると、はるかに内容が劣ってはいるが少なくともIFを有しているオープンアクセスジャーナルに投稿者が興味を移



IJIDの編集委員会が開かれた第32回DGI大会の会場

してしまう可能性が高いこと

- ・現在での推定のIFがすでに1.4近くになっていること

である。これに対してSpringerからは、現在すでにIJIDはモニタリングの対象となっており、より多く引用される論文をこれからの短期間に増すなどの準備をする必要があるとの説明があった。

課題であるIFの取得は早くとも来年末になる可能性が高いが、試算では歯科のIFランキングでの上位50位内に登場することが期待される。

## 広報委員会からのお知らせ(メールマガジンの配信)

広報委員会委員長 加来敏男

この度、広報委員会ではメールマガジンの配信を開始いたしました。以前より、会員の皆様からメールマガジンを配信して欲しいとのご意見を多数いただき、これを機に様々な情報提供をいち早く行えることとなりました。

メールマガジンは、月1回程度を予定しており、本部及び支部学術大会について、口腔インプラント専門医臨床技術向上講習会やBLS講習会の開催予定、各種委員会からのお知らせ、関連学会の学術大会やセミナーについてなど、最新情報を配信してまいります。

メールアドレスの登録をされている方には配信させていただきますので、配信停止/登録内容の設定変更をされる場合は、本学会ホームページ (<http://www.shika-implant.org/>) トップページ右上の「会員マイページ」よりお願いいたします。(メニュー→会員情報変更→メールマガジン 配信する/配信しない にチェック) また、メールは [jsoi@shika-implant-mail.com](mailto:jsoi@shika-implant-mail.com) から配信いたしますので、配信を希望される場合はこちらからのメールを受信できますようご設定ください。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

## 研修施設紹介

### 東北口腔インプラント研究会

施設長 古澤利武



2018年11月11日講師の阿部田暁子先生を囲んで



東北口腔インプラント研究会主管の第35回支部学術大会

東北口腔インプラント研究会は、二年半の研修施設としての申請期間を経て、東北地方で3つ目となる臨床研修施設として2013年6月2日に、認定されました。認定時には、指導医1名、基礎系指導医1名、基礎系指導者1名、専門医7名、他会員17名でスタートしました。

翌年2014年4月より、「患者に対し、より安全なインプラント技術の習得」を目標とし日本口腔インプラント学会認定講習会を行っています。当研究会の会員の中には、30年前よりインプラント臨床を行っている先生も多数おり、今ではほとんど行われていない骨膜下インプラント、ブレードインプラントなどの長期成功症例など、今の若い先生方が見たこともないインプラントの歴史的症例などを閲覧することもできます。また、海外で研鑽してきている先生も多数おり、特に、昨年亡くなられた Carl E.

Misch 先生のエビデンスを基礎とした内容を主とした講義に力を入れております。インプラント埋入実習においても基礎的外科技術である切開線の入れ方、剥離方法、縫合、骨質の違いによるドリリングテクニックなどに力を入れております。また、術前の全身管理で必要とされる採血方法も参加されている先生達での相合実習を数回行ってあります。また、毎回講習会修了後には各自の症例を持ちより症例検討会なども行ってあります。毎年講習会には、インプラント学会専門歯科衛生士の阿部田暁子先生を講師としてお招きしまして「インプラント手術における歯科衛生士の役割」と題して術前・術後の器具の滅菌方法および器具の清掃方法を講習会に参加している先生や、当会員の先生方の衛生士や歯科助手の皆さんが参加し、チームワークの重要性を講義して頂き大変勉強させられております。

東北口腔インプラント研究会の大きな特徴として、大学との共同基礎研究があります。当研究会所属の基礎系指導者である山形大学院理工学研究科鵜沼英郎教授との「骨補填材の研究開発」「骨へのトリペプチドコラーゲン効果」、当研究会学術顧問である基礎系指導医の神奈川歯科大学木本一成准教授との「フッ化物の応用」、北海道大学久保木芳徳名誉教授との「チタンウェブ骨補填材としての効果」「チタン結合タンパクの究明」、などを日本口腔インプラント学会総会および他の学会などで発表してきております。

奥寺元先生が施設長である東京形成歯科研究会との共同研究・講習会の開催など積極的に行っております。また、韓国の金ホンギ先生が会長である韓国口腔インプラント学会やフィリピンのフィリピンインプラント学会など海外との学術交流も盛んに行い、意見交換、情報交換を行っています。

今後も多くのインプラントを安全に臨床にとり入れていけるよう、先生方、そして患者のために、正確な情報発信および研究を行っていきたく思っております。

## 佐賀大学医学部 歯科口腔外科学講座

研修施設長 後藤昌昭  
教授・診療科長 山下佳雄



医局でのインプラント埋入実習の様子



第33回九州支部学術大会

当施設は1981年4月に佐賀医科大学附属病院の診療科として設置され、同年10月より本格的な診療を開始しました。初代教授である香月武先生の他3名と少人数でのスタートでありましたが、その後、順調に教室員も増え、1987年に講座に昇格しました。2002年には後藤昌昭先生が講座主任として取り仕切り、2016年からは山下が後任となり現在に至っております。当講座は佐賀県における歯科口腔外科専門機関の中核をなし、臨床、研究、教育に取り組んでいます。診療面では口腔がん、唇顎口蓋裂、顎変形症、歯原性腫瘍、顎顔面外傷、歯性感染症、顎関節症など口腔外科疾患の治療を中心に行っています。医学部附属病院における歯科口腔外科は耳鼻咽喉科、小児科、形成外科、脳外科、放射線科といった関連診療科との連携を持ち、チーム医療を実践することが重要です。また一方で地域の有病者、障害者への歯科治療も求められています。具体的な診療実績としては、外来新患者数は年間約1,500人、入院患者数は年間約450人で推移しており、全身麻酔下手術は年間約250件、外来局麻

手術は年間約1,000件です。2009年4月からは横断的診療班として口腔ケアサポート班(OST)を設立し、院内の口腔環境の向上だけでなく、県歯科医師会と協力して地域連携にも貢献すべく活動も行っています。

インプラント治療に関しては、初代香月教授が歯科医師としての最終治療目標は咀嚼機能の回復であると提唱されていたことから、デンタルインプラントの口腔外科疾患への応用をかなり早い時期から模索してきました。1980年代には外傷歯の固定にアルミナセラミック製歯内骨内インプラントを使用していました。1980年代後半には骨結合型インプラントを再建顎骨や顎裂部に応用し、当時、高度先進医療の承認も得ておりました。その後、広範囲顎骨切除症例に対してインプラントによる顎口腔機能回復を行う口腔外科施設は増加し、今日の保険適応につながったと考えています。

本学会の活動としては、第16回九州支部学術大会(1999年)を香月教授が、第22回(2005年)、33回(2016年)の支部学術大会を後藤教授が大会長として佐賀の地で開催されました。両先生ともに本学会理事を長く務められました。

現在も、地域との連携を目指し、インプラント研修会を学内で開催しております。学外から講師として他大学や地域でインプラントを専門としてご活躍されている先生をお招きし、教育機関としての役割も果たしております。研修会に参加される歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、看護師、さらには院内学生に対して、インプラントに対する知識ならびに技術向上を目指すことを目的とし、症例検討からハンズオンと幅広く開催しています。今後も地域の先生方との症例検討会やプランニング教室も予定しております。詳細は当講座ホームページのSNSに掲載しておりますので、是非ご覧いただくと存じます。<http://www.saga-u-oms.jp/>

医局には3Dプリンターを設置しており、顎顔面骨模型を作製し、外科手術、ならびにインプラント埋入のシミュレーションを行うことで安全、正確なインプラント治療を提供するように努めています。またデジタルワークフローを容易に展開するために複数のシミュレーションソフトとノーベルプロセラスキャナージェニオンIIも設置して治療に活用しております。地域開業医からのプランニング指導の際にこれらを駆使して、さらに展開していく予定です。

今後も診療のみならず教育、研究を精力的に行い地域貢献さらには日本国民の口腔医療の発展に努めていく所存です。今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくごお願い申し上げます。

## 公益社団法人日本口腔インプラント学会 歯科技工士優秀発表賞設立のお知らせ

専門歯科技工士委員会委員長 古谷野 潔

第49回学術大会より、「公益社団法人日本口腔インプラント学会歯科技工士優秀発表賞」を設けることとなりました。

たくさんの方に発表いただけるよう専門歯科技工士委員会でサポートさせていただきます。歯科技工士の会員様におかれましては奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

### ■歯科技工士セッション

発表形式：口頭発表（発表7分，質疑応答3分）

### ■演題登録期間（予定）

2019年2月22日（金）～5月7日（火）（正午まで）

### ■歯科技工士優秀発表賞について

優秀な口頭発表には、「公益社団法人日本口腔インプラント学会歯科技工士優秀発表賞」が授与されます（副賞として賞金2万円，表彰盾を授与いたします）。

歯科技工士優秀発表賞は9月16日（日）午後，受付付近の掲示板にて発表します。

受賞者は次回大会表彰式にご出席ください（代理出席可。交通費は支給されません）。発表の内容が他学会で発表済みあるいは発表予定でないこと遵守してください。

## 新入会者紹介

（平成30年7月1日～平成30年12月10日）

### ▼東北・北海道支部

（北海道）赤坂真琴，石川世菜，今井崇博  
長内涼華，長内孝雄，格口 渉，加藤伶菜  
菊地花菜子，熊谷 渉，齊藤淳子，坂元智美  
志茂 剛，庄司麻美，竹澤憲幸，西川弘恵  
守本勝幸，采田真歩

（青森県）佐藤崇人，高橋清佳

（宮城県）朝妻健太郎，小久江知洋，橋本嘉貴

（秋田県）青山公平，東 郁彌，荒木美里  
伊藤晋祐，工藤 洋，花田 懐，福島隼人

（山形県）村上 頌

（福島県）池田文博

### ▼関東・甲信越支部

（茨城県）清原秀樹

（栃木県）赤城友理，芥川重之，相馬悠也

（群馬県）石関晶文，磯野大輔，遠藤伸吾  
君和田有香，須永 肇，中村蓉介，原 己容子  
平形友里香

（埼玉県）赤池 隆，大神田理沙，大谷健人  
大西里奈，吉川知哉，黒沢尚美，篠原優太  
志水大地，杉山雄一郎，田口耕平，竹下勝規  
田中 敦，富塚 彩，巴 秀司，中村茂雄  
白田智子，花俣直利，原 信夫，原 陽子  
道具 萌，宮島 啓，吉野友海

（千葉県）飯田 駿，北澤美栗，木本 統  
古呉昌彬，小島悠乃，小松世幸，坂倉美菜子  
宗宮英希，高橋直樹，高橋奈々，高橋春菜  
鳥海友子，永安瑞樹，長良郁美，西川原総生  
二野宮杏奈，牧野健治，村田京果

（東京都）阿部倫一郎，井出啓子，伊東 慧  
岩下加奈，上田庸子，内田博文，宇都宮綾乃  
大島貴之，大野立人，大橋正樹，大森奈央  
岡 美由紀，岡崎啓太，岡野吉紘，小澤真奈美  
郭 省吾，川瀬雅美，川面理紗，菅野勇樹  
北川英輝，黒子佳香，小溪啓介，小林幸男  
齋藤博愛，酒井ちひろ，酒井善己，坂本奈津季

下道祐貴, 鈴木正憲, 田口由紀子, 田中章啓  
谷ノ口洋実, 遠 佐穂, 椿本貴教, 戸塚健人  
永井啓嗣, 中石典子, 中條弥生, 新谷元康  
西澤智香子, 根間大地, 馬場世都子, 林 愛里  
林 大貴, 針生垂矢子, 春山秀遠, 星野 恒  
丸川恵理子, 丸本美奈子, 三好泰人, 茂垣麻聡江  
森 祥太郎, 山崎映太, 山西加奈子, 横江真木子  
横田沙雪, 横森香世子, 吉野斗菜, 和田慎一郎  
渡辺由梨子

(神奈川県) 安達かおり, 石井 淳, 石橋真乃介  
伊藤光彦, 上田美淑, 岡部紗也, 川島瑞代  
小石 健, 小山祐司, 佐々木小百合, 清水 賢  
蕭 敬意, 関原賢治, 田井中文章, 根本菊香  
半澤栄治郎, 藤田邦良, 山内浩喜, 山崎眞理香  
山本千博, 横田侑紀, 吉富瑠菜

(新潟県) 波田野沙央里, 深井真澄  
(長野県) 唐澤今人, 椎谷由香, 塩澤真実  
高田 亮, 辻本 真, 長井 健, 樋口志織  
富士岳志, 村澤貴実

#### ▼中部支部

(岐阜県) 池上昂秀, 田中 孟, 豊倉加奈  
中島徹哉, 中町侑右  
(静岡県) 熱田俊一, 渋谷ゆか, 中江英彦  
古橋拓哉, 松本光平  
(愛知県) 石川美佳, 石川瑞姫, 奥村奈央  
神谷美穂, 川上晃正, 熊野弘一, 清水千裕  
杉江良太, 竹内祐貴, 近石壮登, 鳥海聖子  
中川達也, 中川昌好, 永野恵司, 長野 愛  
長谷川くるみ, 長谷川隼世, 長谷川義明, 平出一久  
藤田幸子, 前多雅仁, 松川和正, 山村邦仁  
(三重県) 近藤祐輔, 瀬川貴士, 水川和香菜  
森下浩司

#### ▼近畿・北陸支部

(石川県) 石高美桜, 野田泰子, 吉田絵美  
(福井県) 高橋らら, 橋本麻美  
(滋賀県) 牛島一美, 中前明日香, 家森正志  
(京都府) 大西ゆりあ, 大矢 愛, 田邊進治  
中村剛士, 宮内真結, 吉澤匡彦  
(大阪府) 天谷棕子, 有留千亜紀, 池島光朗  
上田梨花, 小川清二, 奥野賢治, 小野陽平  
小幡亮介, 片山雅代, 葛山智彦, 川原千春  
楠本さえり, 下野秀虎, 下野真穂, 曾 昱豪

高間 悟, 瀧上奈央, 辰野浩章, 總山彰雄  
堀内美知代, 宮永裕彰, 目見田英里沙  
ヤン シファン, 楊 元元, 吉澤孝之  
吉田真一郎, 吉田春陽, 吉村祐亮, 芳本 武  
李 敏

(兵庫県) 青田直樹, 安積史尊, 一村幸代  
岩永愛奈, 大西泰輔, 大西利江子, 加藤典子  
川畑真哉, 西郷麻美, 芝辻豪士, 竹内 葵  
田代百合菜, 中塚生馬, 任 順隆, 登里悠未  
原 有佑, 板東泰博

(奈良県) 更谷修造, 野阪 賢, 堀内康聖  
水川真理子, 森本千香子

(和歌山県) 今木 岬, 樋口沙織, 山中敦生

#### ▼中国・四国支部

(鳥取県) 大野光輔  
(岡山県) 池田良子, 伊藤佳奈, 山本真理子  
(島根県) 福田幸市  
(広島県) 相田明子, 井田寛子, 川越麻衣子  
武田りん, 柄 博紀, 長谷川尚子, 浜井英津子  
安野文都, 横村康彦

(山口県) 西原末城  
(徳島県) 魚里亮平, 工藤景子, 鶴田真生  
劉 黎佩

(香川県) 湊 智美  
(愛媛県) 相原祐奈, 大本紗代, 山本瑛子

#### ▼九州支部

(福岡県) 井上正子, 加川滋之, 草場裕美  
瀬戸口大道, 高木康隆, 高田大輔, 田中啓喬  
塚田小百合, Thongpoung Sirapat  
中村恵子, 西原宗信, 平原仁寿

Phanthavong vansana, 宮原 慧, 矢野 鈴  
吉井花奈美

(佐賀県) 荒巻亮太, 岩本脩平, 田中香須子  
鶴岡祥子, 林田淳之介

(長崎県) 池田真美香, 川原麻紀, 町田李菜  
松田直毅

(熊本県) 有永 誠

(大分県) 田中宏佑

(宮崎県) 藤田聖羅

(鹿児島県) 岩元佳織, 駒走尚大, 田原佳奈

(沖縄県) 喜友名沙織

(以上 337 名)

## 目次

新年のご挨拶	1
第48回学術大会開催報告	2, 3
第49回学術大会案内	4
第48回学術大会受賞者紹介	4, 5
平成30年度名誉会員	5, 6
平成30年度学会特別功労賞	6, 7
平成30年度学会特別賞	7
平成30年度学会優秀論文賞	8~10
第47回学術大会各賞受賞者	10~17
第33回口腔インプラント専門医臨床技術 向上講習会報告	18, 19
第34回口腔インプラント専門医臨床技術 向上講習会報告	20, 21
第32回DGI参加報告	21, 22
2018 IJID Editorial Board Meeting から	23
広報委員会からのお知らせ	23
研修施設紹介	
東北口腔インプラント研究会	24
佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座	25
歯科技工士優秀発表賞設立のお知らせ	26
新入会者紹介	26, 27
広告	28
目次	28

## 広報委員会からのお知らせ

今年度から加来敏男が委員長を務めます。今期の広報委員会のメンバーは以下の通りです。

委員長：加来敏男 副委員長：塩田 真  
委員：山森徹雄, 今 一裕, 内藤宗孝,  
十河基文, 村井健二, 友竹偉則,  
添島義樹

広報委員会はニュースレターとホームページを通じて会員の皆様に学会の情報を素早く正確に伝達するよう努力致します。引き続き、広告可能な専門医取得に向けて広報の立場からサポートしていく所存です。ご意見、ご要望等ございましたら、以下の連絡先にご連絡ください。

〒871-0057 大分県中津市三ノ丁 1278-3  
医療法人加来歯科 加来敏男  
電話：0979-22-0708  
ファックス：0979-22-1688  
メールアドレス：info@kakudental.com

インプラント学会

Thinking ahead. Focused on life.

100+  
A Century of Innovation

MORITA



# Veraview X800

New Frontier of the X-ray

ベラビュー X800は、CT撮影に加えパノラマ/セファロ撮影を1台で可能にしたAll-in-oneタイプのX線診断装置。高解像度、ボクセルサイズ80μmのCT撮影を実現。CT撮影は、水平にX線を照射することで、アーチファクトの少ない画像を取得できます。さらに、高精細な360度CT撮影モードとハイスピードで低照射線量の180度CT撮影モードを搭載し、診断目的に合わせた撮影を行うことができます。

## Debut



発売 株式会社 モリタ 大阪本社: 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 T 06 6380 2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 T 03 3834 6161  
お問合せ: お客様相談センター 歯科医療従事者様専用 T 0800 222 8020 (フリーコール) 製造販売・製造 株式会社 モリタ製作所 京都市伏見区東洪南町680 〒612-8533 T 075 611 2141  
販売名: ベラビュー X800 標準価格: 9,600,000円~(消費税別途) 2016年10月21日現在 一般名称: デジタル式歯科用パノラマ・新撮影X線診断装置  
機器の分類: 管理医療機器(クラスII) 特定保守管理医療機器 医療機器承認番号: 228ACBZ00008000  
詳細は製品情報につきましては、こちらを参照ください。 [http://www.dental-plaza.com/article/veraview\\_x800](http://www.dental-plaza.com/article/veraview_x800)